



盲児のための学校

「耳で見る」「手で読む」「頭で歩く」盲児の指導

2026/7/27 熊本県立盲学校
2026/7/28 佐賀県立盲学校



公益財団法人明日佳 事務局長 鈴木重男

盲児を取り巻く環境 Development of Inclusive Education

専門性の維持継承が困難

盲児が少なくなってきた

通常級の盲児は点字で学ぶ

盲学校で教えてもらった

盲学校は、点字・歩行・生活点字教材の支援

盲学校のお陰で、地域の学校で勉強できる

盲学校は、視覚障害教育の中核センター

寄宿舎：生活
校舎：学習

盲学校の盲児数の減少により、盲学校自体の専門性継承が困難になっている。

一方、通常校在籍の盲児は増加し、盲学校の役割は拡大している。

点字・歩行・生活の基礎基本を確実に保障することが、盲児の学びと自立の基盤となる。

盲学校は、地域の視覚障害教育の中核拠点としての役割を担う必要がある。

役割

盲学校

教務：基礎基本

事務：財務支援

舎務：活用、応用、発展





1頁

「盲児のための学校」コンセプト

教務・事務・舎務の三位一体

盲児の尊厳を基盤とする

盲児から学ぶ姿勢“

できること”の尊重

盲児の感覚を基盤とした関係性

共創としての教育

逃げずに向き合う教師の人間的態度

特別支援学校のセンター的機能の強化：自立活動



幼稚園・小・中・高等学校等においても特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加している中、特別支援学校には、その専門性を活かし、センター的機能を発揮することが求められる（学校教育法第74条に規定）。

具体的な取組内容としては、

- 小・中・高等学校の教員への支援・研修協力
- 小・中・高等学校に通う子供やその保護者への相談機会や情報の提供
- 特別支援学校の教員による通級による指導の実施（弱視や難聴など該当する障害種別の通級による指導が小・中学校等で行われていない場合等）
- 乳幼児教育相談等が挙げられる。

令和8年5月28日
特別支援教育WG
参考資料2

特別支援教育ワーキング
グループ参考資料集



文部科学省の取組

- 特別支援学校のセンター的機能強化にかかる教職員の加配定数の措置数（令和8年度予算）
小・中学部設置校：651人
高等部単独設置校：50人

135

本日のテーマ
職員の
専門性

←「21世紀の特殊教育の在り方について（最終報告）」（文部科学省, 2001）、
「地域の特殊教育のセンターとしての特殊教育諸学校の機能の充実」が示され、
平成18年2006年法改正でセンター的機能の発揮を定めた特別支援学校制度実施から20年経過。まだ「立ち止まっている感」。

79
頁

盲学校の専門性(実践知)の特性



中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会特別支援教育ワーキンググループにおける教師の専門性に関する主なご意見(令和8年1月7日特別支援教育作業部会資料9)より
(視覚障害教育関係委員宮内久絵氏(筑波大学人間系准教授)ご意見)

宮内先生の盲学校の専門性向上に係る課題解決へのご意見を分析・整理

カテゴリー	内容の要点
① 専門性の性質(実践知依存)	歴史的に培われた指導法・教材、現場経験の重要性
② 専門教員の量的不足	絶対数が少ない、異動により専門性が途切れる
③ 専門性維持のための人事制度	ガイドライン、長期勤務、特例措置
④ 地域支援体制の強化	地域の学校で学ぶ児童への支援体制整備
実践知(Tacit Knowledge)	・長い歴史の中で培われた指導法・教材の使い方 ・児童生徒の特性に応じた判断 ・現場経験の蓄積でしか身につかない技能

83
頁

Expanded Core Curriculum ECC「自立活動+寄宿舎機能」



ECC 領域	内容(TSBVI の文脈に基づく要点)
① 点字およびその他のアクセス手段	点字、拡大文字、音声、触覚教材など、学習アクセスの基盤となる手段の習得。
② 歩行指導(Orientation & Mobility)	白杖操作、空間認知、公共交通機関利用など、移動の自立を支える技能。
③ 補助技術(Assistive Technology)	画面読み上げ、拡大読書器、点字ディスプレイ、タブレット等の活用。
④ キャリア教育(Career Education)	職業理解、職場体験、就労準備、進路選択の支援。
⑤ 自立生活スキル(Independent Living Skills)	調理、金銭管理、身辺自立、家事など、生活の自立に必要な技能。
⑥ 余暇・レクリエーション(Recreation & Leisure)	スポーツ、趣味活動、社会参加の機会を広げるための指導。
⑦ 自己決定(Self-Determination)	自己理解、意思決定、自己 advocacy(自己権利擁護)の育成。
⑧ 感覚効率(Sensory Efficiency)	残存視力・聴覚・触覚などの活用を最大化する訓練。
⑨ 社会的スキル(Social Interaction Skills)	コミュニケーション・対人関係スキルの育成。

視覚に障害のある教師

次期学習指導要領が求めるICT Information and Communication Technology
アクセシビリティ支援の中心的担い手



次期学習指導要領

1人1台端末・アクセシビリティ機能を「合理的配慮の基礎的環境整備」として明確に位置付け → ICTアクセシビリティ支援の重要性
視覚に障害のある教師は、各種視覚支援機器・ソフト等を日常的に使用。ICTアクセシビリティの実践知を有する専門職

→ 「ICTを使った合理的配慮の具体的指導」

センター的機能の地域支援の中核として、通常の学級・通級・特別支援学級への助言、校内委員会・就学支援への参画、ICT・合理的配慮の研修提供など、地域の専門性を支える中核として活躍すべき。

2頁

点字は、盲児の未来への懸け橋 3歳児の盲児で触読可能



※「幼児教育」：0歳～小学校就学前までの幼稚園、保育所、認定こども園における教育。
「幼」は幼児教育の略称として使用。

18

幼児教育WG 令和8年5月29日
幼児教育ワーキンググループ保育専門委員会
資料3・保育専門委員会取りまとめ(案)

77
頁

2001年 北海道旭川盲学校校長に異動



なぜ 点字を指導
しないの？

知的障害児
だからです

どうして
ですか？



→4名(当年度新卒3名と他校からの転任者1名)を4名の盲児の担当として、鈴木式点字触読指導法で指導 (坪川先生、沓澤先生、)
⇒ 盲児は、点字触読が可能になりました。

新卒教員

鈴木式点字触読指導法



○は？
□は？

大小
軽重
冷熱



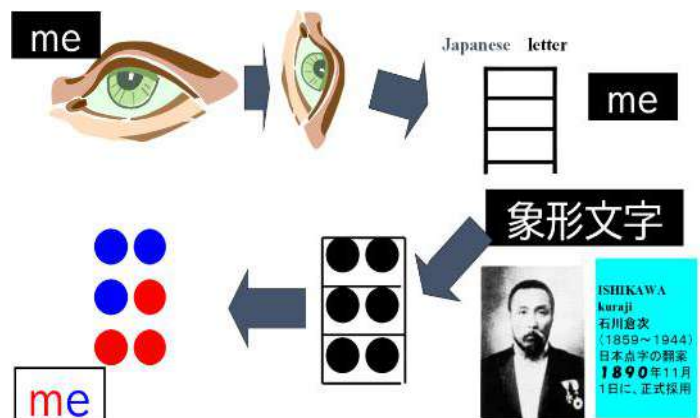
点字は楽しい！ 親も喜ぶ

2頁

点字は、盲児の目



盲児の指先が点字をたどるとき、思考が芽生え、知が広がり、人と心が結ばれ、かつ点字は視覚に代わる知の扉であり、静かな指の動きの中に、盲児の尊厳と心の気高さが宿ります。



1890年、石川倉次がルイ・ブライユの6点点字(1825年)を基に日本の「ひらがな点字」を翻案。

3頁 盲幼児と晴眼幼児のリテラシー格差

晴眼幼児: 家庭での絵本読み聞かせや、生活の中の文字情報に触れる機会が豊富。3歳で半数以上がひらがなを読める。

盲幼児: 大人の意図的な関わりがなければ、文字(点字)に出会えない。就学前に大きなリテラシー格差が生じている。

平成27年4月28日 文部科学省 教育課程企画特別部会資料

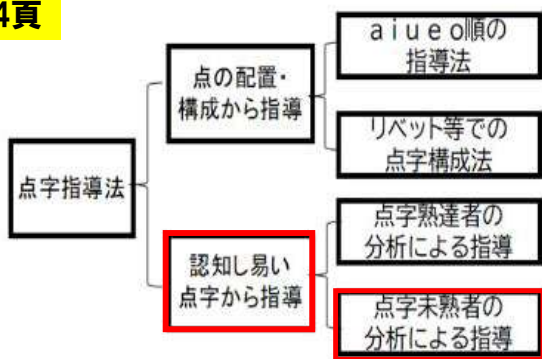
文字・数・思考の育ち(年少児～年長児・学年別・子供の性別)

(%)

	年少児		年中児		年長児	
	男子 (695)	女子 (669)	男子 (594)	女子 (627)	男子 (543)	女子 (580)
自分の名前を読める	79.1	87.7	95.5	98.1	97.9	99.1
かな文字を読める	58.4	70.0	81.9	89.7	92.1	97.7
自分の名前をひらがなで書ける	31.8	59.6	77.4	94.1	96.5	98.8
1、2、3、4と20までの数を正しく数えられる	80.6	86.5	94.4	95.1	97.2	97.6
指やおはじきなどを使って、数を足したり、引いたりすることができる	27.8	27.4	65.0	68.9	85.8	87.4
自分のことばで順序たてて、相手にわかるように話せる	68.5	74.4	80.2	82.1	82.9	87.9
えんぴつを正しく持てる	52.6	72.2	73.8	83.8	83.5	86.2
絵本や図鑑を1人で読める	48.8	55.0	69.3	79.5	84.0	92.1



4頁



鈴木式点字触読指導
認知しやすい点字から指導。
形として直感的に捉える。

鈴木式点字触読指導法

開発動機: 多くの盲児、重複障害児、中途失明者が点字触読指導から遠ざけられていた現状を目の当たりにした経験

点字の力: 点字は、広い世界を知り、深く考え、人格を磨き、人類の遺産を継承・創造する力を与える。

教師の使命: 全ての視覚障害児に点字リテラシーを保証すること。

鈴木式点字触読指導法



難易度別
5段階分類
46文字 5段階
段階1
a, me, re, fu, u,
i, ni, ku
段階2
ko, ka, o, yo,
hi, nu, no, to,
na
易しい文字から始
め、成功体験を積
み重ねることで
学習意欲を高め
る。

段階	点字例	特徴
Level1	a me re	単純な形態、短い棒や点
Level2	ko ka o	少し複雑な配置、左右非対称
Level3	ta sa shi	回転的形態が増加
Level4	yu su o	類似形態が多く誤読しやすい
Level5	he ke n	最も複雑で弁別が困難
Level 1	あ い う え お か き く け こ さ し す せ そ た ち っ っ っ っ っ っ	
Level 2	こ か あ よ ひ め の と な	
Level 3	た さ し み わ も ね も っ っ っ っ っ っ	
Level 4	ろ す を や は る ま そ き	
Level 5	へ け ん ほ ら せ ち り ろ え て	

広島大学氏間先生 鈴木式点字触読指導法



点字の指導法

広島大学学術院
氏間和仁

一時停止 K



点字 2 ・ 鈴木式触読指導の解説
<https://www.youtube.com/watch?v=30Np2PD8Lvk>

5頁

点字触読指導の3原則



- 易から難への原則** : 認知しやすい文字から導入し、既習文字と組み合わせて語彙を増やす。
ドリルの原則 : 録音機器を活用し、学校・家庭で繰り返し練習して定着させる。
個別化の原則 : 一人ひとりの能力やペースに合わせた教材と指導を行う。

6頁

触読と表記のサイクル指導 ①



表打ち点字器の使用: パークンスブレーラー等、打った文字がそのまま読める器具を必ず使用する。

理由: 点字の「形」のイメージを触読と表記で一致させるため

点字板(鏡映)は初期には不向き。

工夫: 指の力が弱い幼児のために「片手打ちキーセット」等の補助具を活用する。



図 15 中指の固定補助の工夫



7頁 触読速度の向上：両手読み



8頁

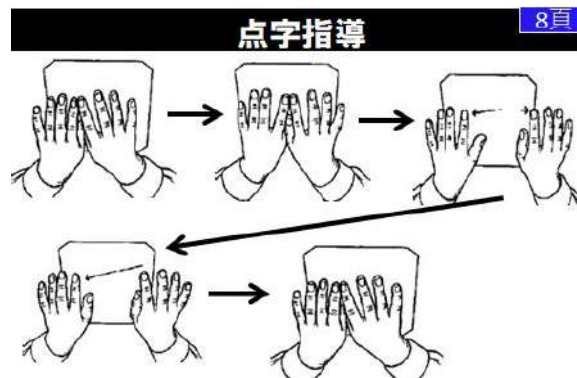
目的: 継時的にしか情報を得られない点字において、両手を使って効率的に速く読む技術を習得させる。

方法 (Wormsley, 1981):

左手が行頭を読み始め、右手が合流して行末まで読む。

右手が読んでいる間に左手は次の行頭へ移動。

このサイクルを繰り返し、スムーズな両手読みを定着させる。



両手読みは、左右の手の分担による

9頁 実践上の留意点①:教師の偏見の克服



教師の思い込み: 「点字は難しい」「この子にはまだ無理だ」という先入観が、子どもの可能性を奪う。

事例: 点字を学んでいなかった重複障害児に鈴木式を試したところ、多くが点字教科書で学べるようになった。

重要なこと: 目の前の子供は必ず点字を習得できると信じ、指導法を工夫する教師の姿勢。

実践上の留意点②:指導開始の目安

開始時期: 3歳程度の発達段階が目安。

必要な能力: 机に正しく座れる体幹保持能力。

自分の鼻・目・口などを指せる。

大小、長短などの基本的な弁別能力。

基礎訓練: モンテッソーリ教具などを用いた触覚弁別遊びで、基礎概念や手指能力を高める。



点字触読指導の実践記録
テキスト14頁～16頁



鈴木式点字触読指導法の実践記録は、
テキスト14頁から16
頁に記載

記載している記録
は、すべて公表済み
か本人の承諾を得て
公開

17
頁

難易度1 (一型)

い こ り に け た し も
い こ り に け た し も

い：タテ線2本
り：左が短いタテ線
右が長いタテ線
け：左にタテ線。右に十字
し：左下のカギ線

こ：ヨコ線2本
に：左にタテ線
右に「こ」のヨコ線2本
た：左に十字
右下に「こ」のヨコ線2本
も：「し」に「こ」のヨコ線2本

難易度2 (人型)

く へ て そ け き ん え
く へ て そ け き ん え

く：「し」の左下のカギ線を90度時計回りに回転
へ：「く」を90度時計回りに回転
て：「へ」を90度時計回りに回転
そ：小さい「て」に続けて大きな「て」を書く
け：「け」の左のタテ線を下に短く書く
き：「け」の右の十字のヨコ線は「こ」、左のタテ線は「き」と同じ位置に書く
ん：「し」のタテ線を右上から左下に斜めに書く
え：「こ」に続けて「ん」を書く

難易度3 (コ型)

っ う か ち ら や と せ
っ う か ち ら や と せ

っ：「て」の下にヨコ線
か：「っ」と「い」の組合せ。「い」の左のタテ線を「っ」の上のヨコ線に書いて書く。「い」の右のタテ線は「っ」から右に離して書く
う：「こ」に続けて「っ」を書く
ち：十字に続けて「っ」を書く
ら：短いタテ線を書く。少し離してタテ線に続けて「っ」を書く
や：「っ」と「い」の組合せ。「い」の左のタテ線を長く、右のタテ線は短く、「っ」の上ヨコ線に書いて書く
と：「っ」の横文字を書く。上ヨコ線の上にタテ線を置くように書く。
せ：「し」と「十字」の組合せ。「し」のタテ線に「十字」のヨコ線を置いて書く。

墨字(ひらがな)指導の実践

目的： 盲児にも、健常者と同じ文字文化へのアクセスを保证する。

方法： 点字と同様に、形の認識しやすさで難易度を6段階に分類。タコ糸やレーズライターで立体的な触察教材を作成。

成果： 盲児や弱視の重複障害児が墨字で手紙を書き、家族を喜ばせた。読書の楽しみが広がった。

知的障害の弱視生徒

普通文字の指導 例：日本のひらがな

い	こ	り	に	け	た	し	も
i	ko	ri	ni	ke	ta	shi	mo
こい 恋 연애	こい 鯉 잉어	にこにこ 미소	たけ 竹 죽	もり 森 숲	もしもし 여보세요		
koi	koi	Niko niko	take	mori	moshi moshi		

17
頁

難易度4（J型）

よ ま は ほ す な む み
よ ま は ほ す な む み

「よ」のヨコ線の無い形を4「基本形」とする。
よ：基本形タテ線の上に短いヨコ線
は：「け」に続けて基本形
す：基本形の丸の終末部を下に長く伸ばす
む：「す」の丸め終末部を右に伸ばす。伸ばした線の最終部の上に「ちょん」

ま：「こ」に基本形
ほ：「は」の上のヨコ線は「こ」
な：左に「十字」、右は「ちょん」、離して下に基本形
み：短いヨコ線を書き、引き続いて基本形を書いて、最終線を右に伸ばして、「十字」

難易度5（O型）

の め ぬ あ お ゆ
の め ぬ あ お ゆ

「の」を5「基本形」とする。
の：基本形
ぬ：「め」に続けて難易度4基本形
お：「十字」に続けて基本形、右上に離して「ちょん」

め：タテ線に基本形
あ：「十字」に基本形
ゆ：短いタテ線に続いて「つ」を書いて長いタテ線

難易度6（U n型）

ろ る ひ わ れ ね ふ を
ろ る ひ わ れ ね ろ、を

ろ：小さな「て」に続けて「つ」
ひ：「て」に続けて縦の「つ」、上を右に伸ばす
れ：「わ」の終末部を右に伸ばす
ふ：「ろ」の左右下に「ちょん」「ちょん」

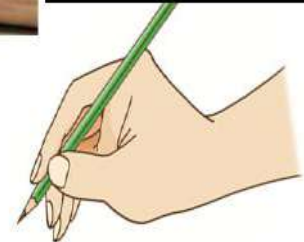
る：「ろ」に続けて難易度4基本形
わ：タテ線と「ろ」の組合せ
ね：「わ」に続けて難易度4基本形
を：「ち」と「と」の組合せ

普通文字の指導 箸の持ち方



盲児に筆記用具を正しく持たせるため、お箸を正しく使用することができるよう留意する。

お箸を正しく持った時、下側のお箸を抜いた持ち方が、筆記用具の正しい持ち方になっている。



明日佳グループ

18
頁

6点漢字システム

6点漢字

例：音読みが1音節の場合
50を新羅しく音+訓の最初の音節

価 カ+あ 豆 カ+な

「6点漢字」システムは、東京の長谷川貞夫先生が開発されたシステムである。

基本的な考え方は、コンピュータの入力手段として、ブライユの6点字から離れずに、漢字の音と訓の読みをもとに漢字を構成している。

このシステムの特徴は、構成が規則的で、覚え易く、通常の点字盤やブレイラーでも記述が可能な点である。

(2) 漢点字システム

漢点字

例（キは木と木偏）

木 林=木+木 森=木×3

例（フは女と女偏、ウは家とウ冠）

女 家 嫁=女+家

「漢点字」システムは、大阪の川上泰一先生が開発されたシステムである。

基本的な考え方は、盲人に日本古来の漢字を読ませることを目的として、普通点字と区別するため8点点字を採用して、基本として、漢字の偏と旁を基に構成している。

このシステムの特徴は、日本古来の漢字の持つ独特の成立ちや意味などを理解することができ、漢字部分の検出がし易い。しかし、表記に際しては、8点点字板が必要であるが、現在の点字出力機の多くには8点出力機能が保持されていることから、表記も容易になってきている。



明日佳グループ

点字リテラシーの重要性



点字リテラシーに係る教師の使命

ルイ・ブライユと石川倉次の遺産である点字は、盲児の「眼の代わり」であり、自己実現の礎である。

教師の使命: 全ての盲児は点字を習得できると信じること。

個々の状況に応じた指導法を工夫し、高い専門性と使命感を持つこと。

鈴木式点字触読指導法は、そのための有効なツールの一つである。

提言①：意図的・計画的な早期指導を

盲幼児は、意図的な働きかけがなければ点字に出会えない。

提言: 盲学校は、幼児期から点字に触れる機会を計画的・組織的に提供すべきである。

保護者と連携し、家庭でも点字に親しむ環境を整える。

インクルーシブ教育の実現には、就学前の点字リテラシー獲得が絶対条件である。

提言②：ICTとのバランス

音声読み上げソフト等は便利だが、点字学習の機会を奪う危険性もある。

点字の価値: 自分のペースで能動的に読み、思考を深めることができる。

スペリングや文章構造の正確な理解に繋がる。

提言: ICTは点字を補完するツールとして活用する。

点字リテラシーを学習の核とし、ICT技術をハイブリッドに活用する指導の工夫が求められる。

点字触読指導にかかる 質問・議論

30
頁



指導の中核 地図概念の指導



2 「体の中の地図」「手の中の地図」「頭の中の地図」の関係(2)

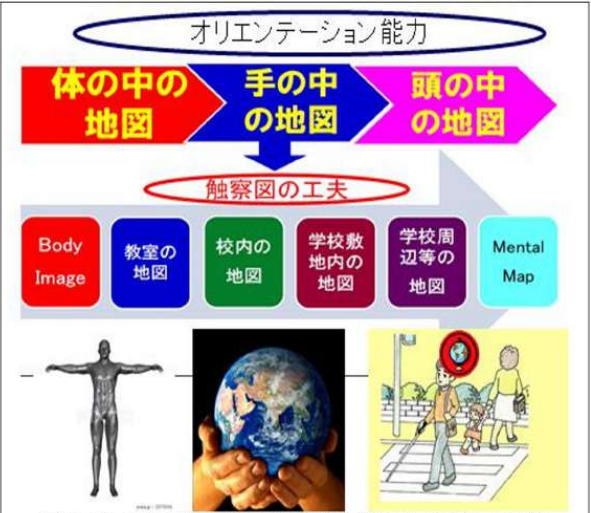


図2 「体の中の地図」「手の中の地図」「頭の中の地図」の関係

77
頁

雪が降りました。
1998年、北海道函館盲学校
長として赴任、1999年2月の
ある日です。

鈴木が開発した白
杖用スノーチップ



30
頁

Orientation & Mobility

31-33頁

歩行指導「鈴木モデル」12の指導要素

14



① 幼稚園

ア ボディイメージ

- ・主要な体の部位名
- ・基本的な動作
- ・Laterality(絶対的方向)の強化

イ 軌跡

- ・単純な歩行軌跡
- ・音源定位→音源移動軌跡

ウ 地図

- ・室内ミニチュア
- ・トレーリングと防御
- ・障害物(空間構成物)の発見と賞賛

エ 白杖探索

② 小学部低学年

ア ボディイメージ

- ・細かな体の部位名
- ・様々な動作
- ・Directionality(相対的方向)の強化

イ 軌跡

- ・図形的歩行軌跡
- ・交差点における交通音の流れ

ウ 地図

- ・校舎内
- ・学校敷地内
- ・学校周辺

エ タッチテクニック(ショートケーン、ガイドライン、スライド)

オ ルート歩行(近辺の店への買物: 自立の一步)

③ 小学校高学年

ア 軌跡

- ・図形的歩行軌跡(45°、90°、135°、270°、315°)
- ・太陽・気流を用いた閉鎖図形歩行

イ 地図

- ・学校周辺

ウ 交通機関の使用

エ ルートによる単独帰省

④ 中学部以上

ア 居住地読図歩行

イ 目的歩行

2 「体の中の地図」「手の中の地図」「頭の中の地図」の関係(2)

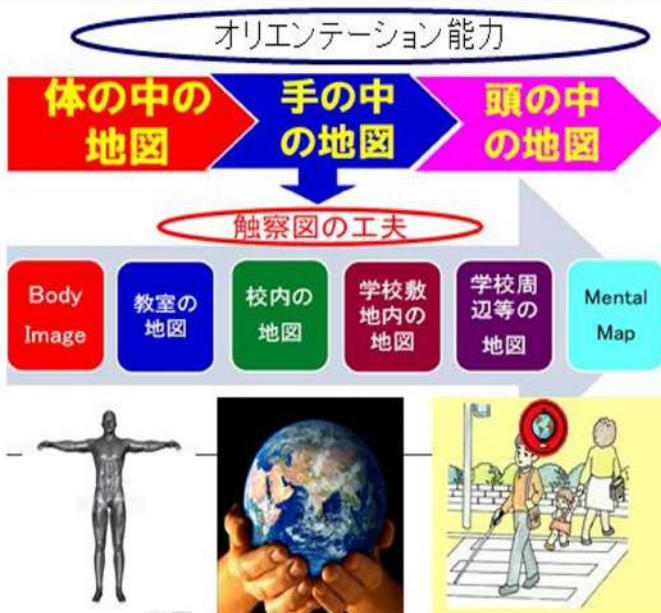


図2 「体の中の地図」「手の中の地図」「頭の中の地図」の関係

Laterality 側面性 絶対的方向

側面性の認知は、日常生活の中で不可欠な基礎的運動感覚である。自分自身を基準とした上下・前後・左右が定位し、正確な運動を学習させることができる。この学習が不満足な児童は、bとd、pとq等の空間認知の過ちをおかす結果になる。

Directionality 方向性 相対的方向

自分を基準とした側面性の発展で、それを空間に投影した概念であり、空間の一つのものを基準にした相対位置の認知能力である。例えば、一個の白球と一個の赤球があるときにどちらが左側にあるかというような相対位置の方向である。

指導事例 ボディイメージ 体・顔 平面作成 動作

Body Image の 基本的内容

身体部位・動作



図 3 体の部位と各種動作





側面性・絶対的方向 Laterality

相対的方向 Directionality





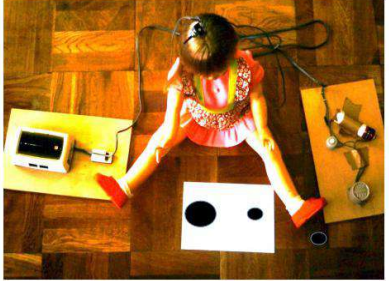
Mental rotation





ヘレンケラーは、ザリバン先生と一緒に人形遊びをしました。

指導事例 音源定位(左右) 位置指示シート

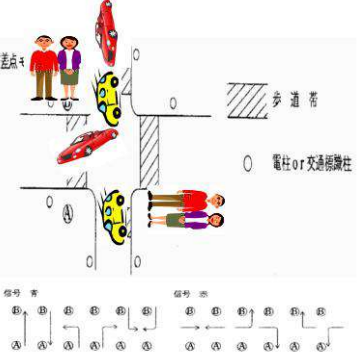




指導事例 交差点モデル学習・音源軌跡

1973年 音源軌跡スピーカー・パイプレーターシステム開発





指導事例 歩行軌跡 ヘルト歩行



ジオラマによる地図指導



山梨県立やまびこ支援学校 <http://www.yamabikoy.kai.ed.jp/>



盲学校のために長野駅構内の模型制作 朝日新聞 2018年3月16日
<https://www.asahi.com/articles/photo/AS20180315004245.html>

39頁
40頁

THE IMPORTANCE OF ORIENTATION AND MOBILITY SKILLS FOR STUDENTS WHO ARE DEAF-BLIND



D. Jay Gense, Ed.S.
Marilyn Gense, M.A.

The National Information Clearinghouse on Children Who Are Deaf-Blind

Guided Travel



Protective Techniques

Upper hand and forearm protection skills



Lower body protection

Trailing





41頁

盲幼児・重複障がい児の白杖探索

白杖は、何かを見つけくれる。白杖は、音を出してくれる(白杖が土や草、アスファルト、電柱等に触れると異なる感触と音がする)



釣竿



バドミントンラケット

筋力の低い盲幼児等に対して、通常の白杖は重たすぎることから、手元が太く、先が細いテーパ構造の白杖を自作・特製する。

白杖を大事に

- ①視覚障害者のシンボル機能
- ②路面(凹凸等)情報の入力機能
- ③下方障害物の防御機能

白杖の接地角度

接地角度	白杖の 落下力	下方物体の 検出	腹部防御の高 低	下方物体発見距 離
30度	大	小	低	遠
45度	中	中	中	中
60度	小	大	高	近

歩行指導の基礎的知識



道路交通法

白杖の携帯義務 第14条 目が見えない者は、道路を通行するときは、政令で定めるつえを携え、又は政令で定める盲導犬を連れていなければならない。

白杖の遵守義務 第71条の二

…、目が見えない者が第十四条第一項の規定に基づく政令で定めるつえを携え、若しくは同項の規定に基づく政令で定める盲導犬を連れて通行しているとき、…、一時停止し、又は徐行して、その通行又は歩行を妨げないようにすること。



図 2-10 2点タッチ操作の白杖歩行

- ・白杖の接地他点: 2歩前方分
- ・振幅: 肩幅
- ・白杖接地リズム: 足の接地リズムと同じリズム
- ・白杖の接地方向: 対足側に白杖を接地する
- ・柔らかな手首の操作
- ・処方された白杖: 歩行能力、身長、歩幅により長さを決定
- ・閉じた技能としての定着化
- ・白杖入力情報と他感覚入力情報の同時処理化

鈴木重男「視覚・聴覚・言語障害児の医療・療育・教育 改訂2版」金芳堂 2011



図 2-11 ダイアガナル操作の白杖歩行

◎使用方法

- ・体の正中線に対して白杖を斜めに操作
- 手首をかえす型、ペン型、握りバシ型など

◎使用される情况

- ・物体の認識時、ヒューマンガイド時、段差等の確認時、ガイドラインに沿って歩く時、目的方向の人の流れに沿って歩く時(出入口等)

鈴木重男「視覚・聴覚・言語障害児の医療・療育・教育 改訂2版」金芳堂 2011

盲児の歩行偏差veering



身体要因（左右差）	白杖スイングの左右差	歩幅・リズムの左右差
片側の筋緊張が強い・弱い	白杖を左右均等に振れない	左右の歩幅がわずかに違う
骨盤の傾き	スイング 幅が左右で異なる	一方の足に体重を乗せにくい
体幹の回旋	手首の角度が一定でない	歩行リズムが安定しない
足の接地の左右差（つま先の方向）		
顔の向き（視力差、利き耳）		



「机を両側に寄せ、向かい合って学び合う授業の情景（イメージ図）」

「古河氏盲啞教育法」
（京都府立盲学校創立百周年記念事業委員会編）

43
頁



歩行の指導 「耳で見る」力の育成

①音源定位

直接音を両耳の時間差と強度差で、
音の発する物体と、距離・方向を認識

②反響定位

反響する音を過去の体験と照らし合わせて、
反響物体とその場の空間の広さ、距離等を認識



図 1 音源定位、エコーロケーション
Sound Localization Echolocation



昔の絵図
琵琶法師・地歌三弦・箏曲・鍼灸などの
専門技能を持つ検校ケンギョウ

44
頁

超音波の活用 K-Sonar

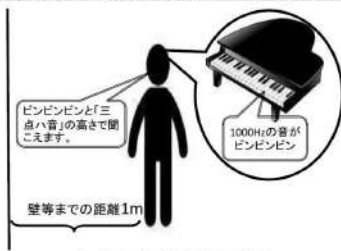


図 6 距離と音の高さ

(1) K-Sonar が表示する距離情報

K-Sonar が表示する距離情報は、環境構成物が 1m 前にあると 1000Hz、2m 前で 2000Hz、3m 前で 3000Hz、4m 前で 4000Hz の音で表示される。非常に分かり易い表示であり、特に音感が優れている盲児にはピアノの音と対比して指導することもできる。



超音波メガネで歩行

音での風景を描画

図 3 中途失明盲生徒が Sonic-Guide で描いた絵

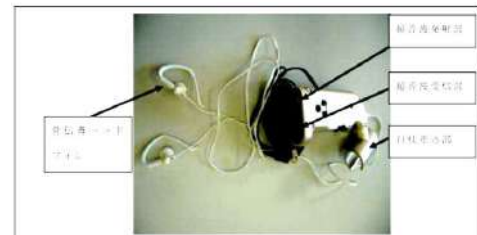


図 1 K-Sonar の外観

(長さ: 12cm, 高さ: 5cm, 幅: 2.5cm, 重さ: 110g)
バッテリー: 3.6V, 連続使用: 8時間, 充電時間: 4時間

図 5 K-Sonar

AIモビリティ歩行器具 Glide



雪路歩行における定点評価

Winter Traveling in Hokkaido Land, Japan
Shigeo Suzuki
Journal of Visual Impairment & Blindness, January 1985, pp. 24–26

季節変化:同じ場所で写真撮影
3年間 → パターン分析

日変化：同じ場所で写真撮影

早朝:積雪

通勤時

昼間時



季節	時期	雪路の特徴
Early stage 初冬	11月末～ 12月初	積雪はまだ浅く柔らかい。昼間に融け、夜間に再凍結。
Middle stage 真冬	12月中～ 3月中	圧雪・凍結が進み、雪山や交差点形状が固定化。
Late stage 春先	3月末～ 4月末	雪が融け始め、路面が露出。残雪、凍結路面、スリッピー

歩行指導にかかる質問・議論

53
頁



53
頁

重複障がい教育「盲児のための学校の体現」



54
頁

盲児が、今、できることを、指導の起点にする



○重複障がい児の指導は、盲児の“できること”を起点

○できる動き、できる反応、出せる声、嫌がらない触れ方を見つけ、それを強化し、広げる

○「できること」「分かること」が出发点



コミュニケーションの基本

重複障がい児とのコミュニケーションは、

- ① 触覚
- ② 声
- ③ 間(ま)
- ④ 予測可能性:ルーチンな行動

相互信頼



行動・反応・沈黙・呼吸は、“言葉”



重複障がい児は、言語の発語がない場合

- ・呼吸の変化(浅い・深い・速い・ゆっくり)
- ・筋緊張の変化(こわばり・緩み)
- ・興奮の高まり(喜び・不安・過敏)
- ・全身反応(身を引く・近づく・固まる)
- ・沈黙(集中・拒否・安心・疲労)

○身体全体が“言葉”として機能

行動・反応・沈黙・呼吸を“言葉”として読む

重複障がい児は、言語の発語がない場合が多い。しかし、



胡坐座で床に額をゴンゴンしている

胡坐座の児童の立たせ方



○両手は、児童と教師の手をお互いにフックする。

○今日足は、児童の足裏が固定するように、つま先を軽く踏む。

○教師の手のひらは上向き、児童の手のひらは下向きとして、教師は児童の両手を引き上げる。

重複障がい盲児の指導と評価 テキスト55頁～65頁



区分	内容	目的
定点評価	同一行動(歩行・立位・操作など)の反応変化を継続的に記録・評価	成長の軌跡を客観的に把握する
成果共有	指導後に保護者へ記録を伝達し、できた喜びを共有	教師・保護者・児童の信頼関係を強化
段階的指導	記録を基に次の課題を設定し、行動を少しずつ高める	無理なく発達を促す
教師の関わり	手の温かみ・声かけ・身体接触を通じて安心を形成	人間的な教育関係の基盤を築く

ビデオ

2001年、旭川盲学校長時 3歳8ヶ月
「ヘレンケラーが来た」「幼稚部で対応できない」



61
頁



ビデオ

4月から3ヶ月間 校長室等で指導





ビデオ

11ヶ月後



重複児への指導にかかる 質問・議論

67
頁



Orientation & Mobilityが基盤



盲児の体育活動の視点は？



1972年、日本ライトハウス「感覚機能向上研修会」、約1ヶ月間、研修

当時、同所に訓練生として全盲の日比野清先生(現在、同法人理事)に普通卓球の試合をして負け

私の盲学校体育を考える始点・視点

盲児が普通児に勝つ喜びを知るための体育活動

69
頁

69
頁

日比野 清 先生 
前陣速攻
鈴木のラケットに当たる
球と卓球台に当たる球
の音を聞いて、即座に
反応

鈴木は、ラバーの張っていないラケットの裏側を使用。
サーブ時や返球時には、卓球のラケットと球がぶつかる音がするよう。

卓球の指導方法は？ 指導教材の工夫

ベニア板 40cm×30cm

「うちわ」のような大型ラケット

ラバーを外した普通のラケット

ビデオ

ブラインドサッカーのドリブルとドリブラーのドリブル

<https://www.youtube.com/watch?v=mvLmHsHyZ8E>

69
頁

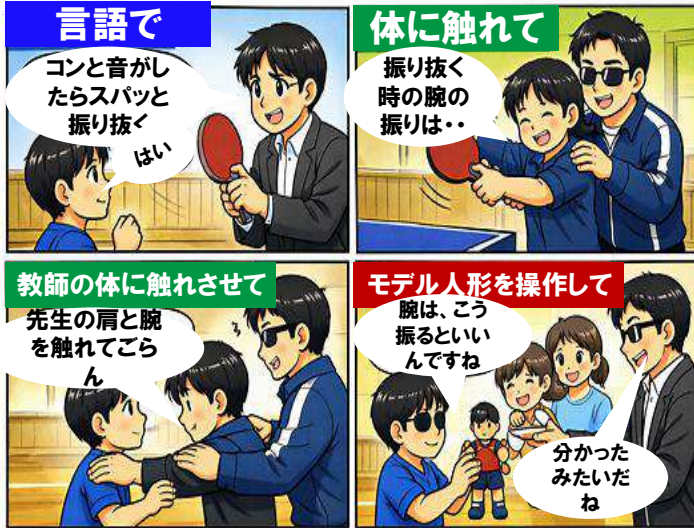
卓球 Closed-skill連続 鈴木は、ラケットの裏側 音刺激 鈴木ラケット「kathu」 球は卓球台「konn」 「konn」 日比野氏は、 球位置の同定 日比野氏「Smash」

盲児は、何故、スポーツができるか

視覚障害児への体育指導

Closed-skill（閉じた技能）:基礎技術
Open-skill（開いた技能）:応用技術

盲児の重要指導ポイント スポーツ動作イメージの指導



盲児の体育・スポーツ活動において、もっとも重要なことは、運動動作・フォームの指導

- a 言語によって
- b 直接体に触れて修正
- c 指導者の体に触れさせ
- d モデル人形に触れさせ

69
頁

スポーツ動作イメージの指導 全可動マネキン デッサン用人形の活用



ビデオ

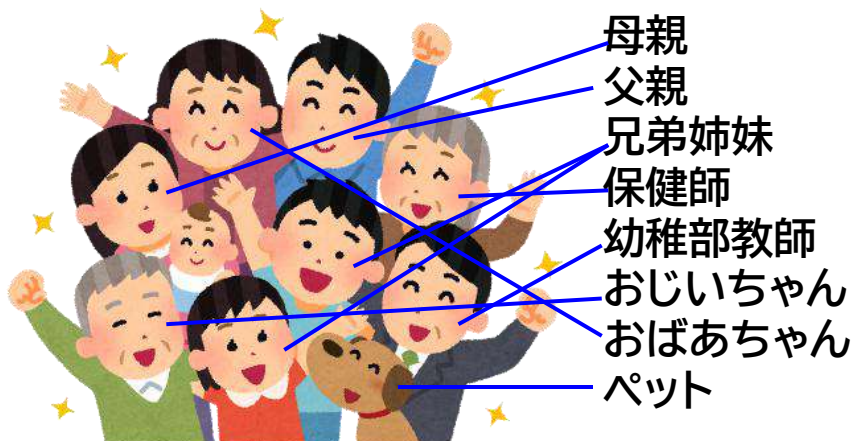
1983年 高体連への加盟・参加 サッカー・レスリング



体育・スポーツ指導にかかる 質問・議論

73
頁保護者と共に
地域支援73
頁

安定した家庭 心をはぐくむ場所
耳で見る力 手で読む力 頭で歩く力
家庭と学校、関係機関等の協働



上図は、柏崎市教育委員会ホームページより引用https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/gakushu_suishin/kyoiku/shogai/gakkoshien/gakkoshien.html



盲児の言葉と概念形成・応答する環境

泣いてるの。
どうしたの。

アー。
おはよう。

アー

これが欲し
かったのね。

ア。ア。
アー

給食がおい
しかったの
ね。

うま。う
ま。

肌のぬくもり
が言葉の始
まり

発した言葉
をまねる。意
味づける。

発した言葉
と動作により
要求を理解

言葉と概念
が結びつく

盲児の言葉
や概念形成の
ために最も求
められること
は、親と子供の
「応答する
環境」の構築

73
頁

保護者への助言 盲幼児への直接指導支援



親の
役割
分担



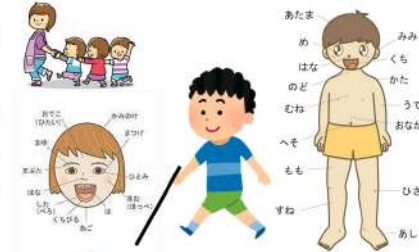
物の
見
させ
方



触
察
能
力



移
動
能
力



75
頁

行動観察による視力の推定

(0.3×見分けたものまでの距離m単位)

(見分けたものの長さmm単位)

(0.3×1)

(15)

推定視力

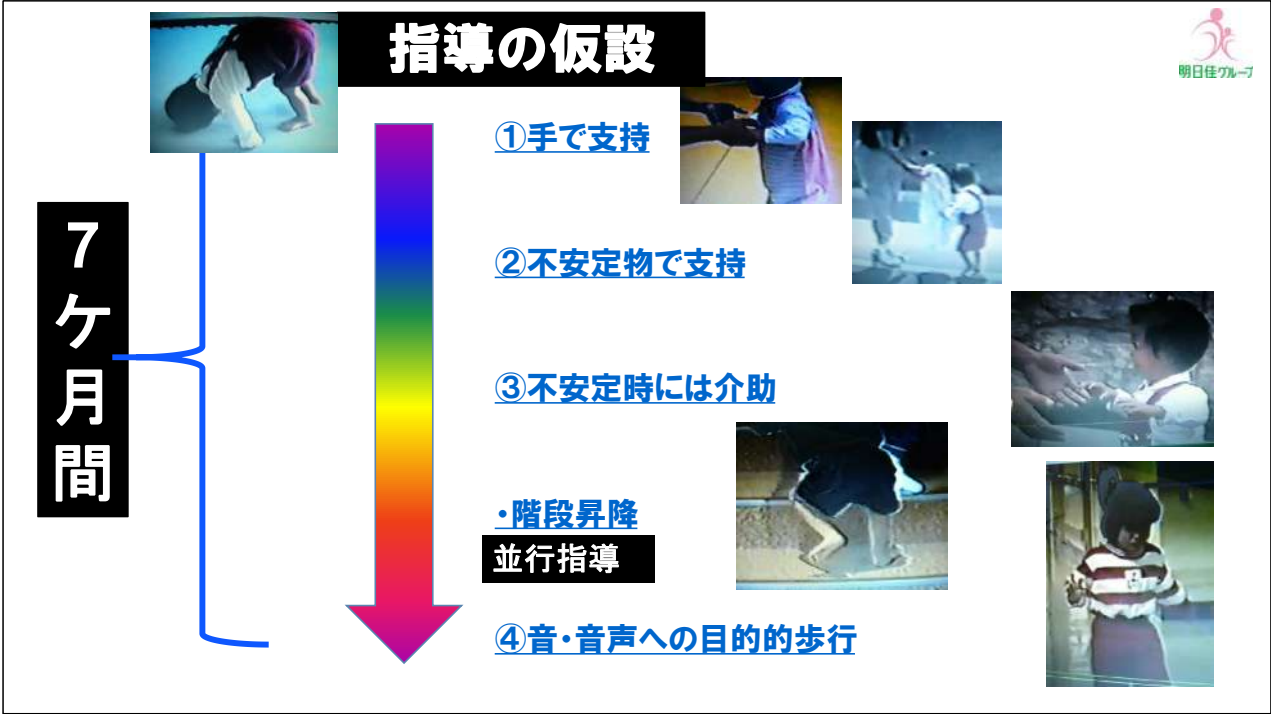
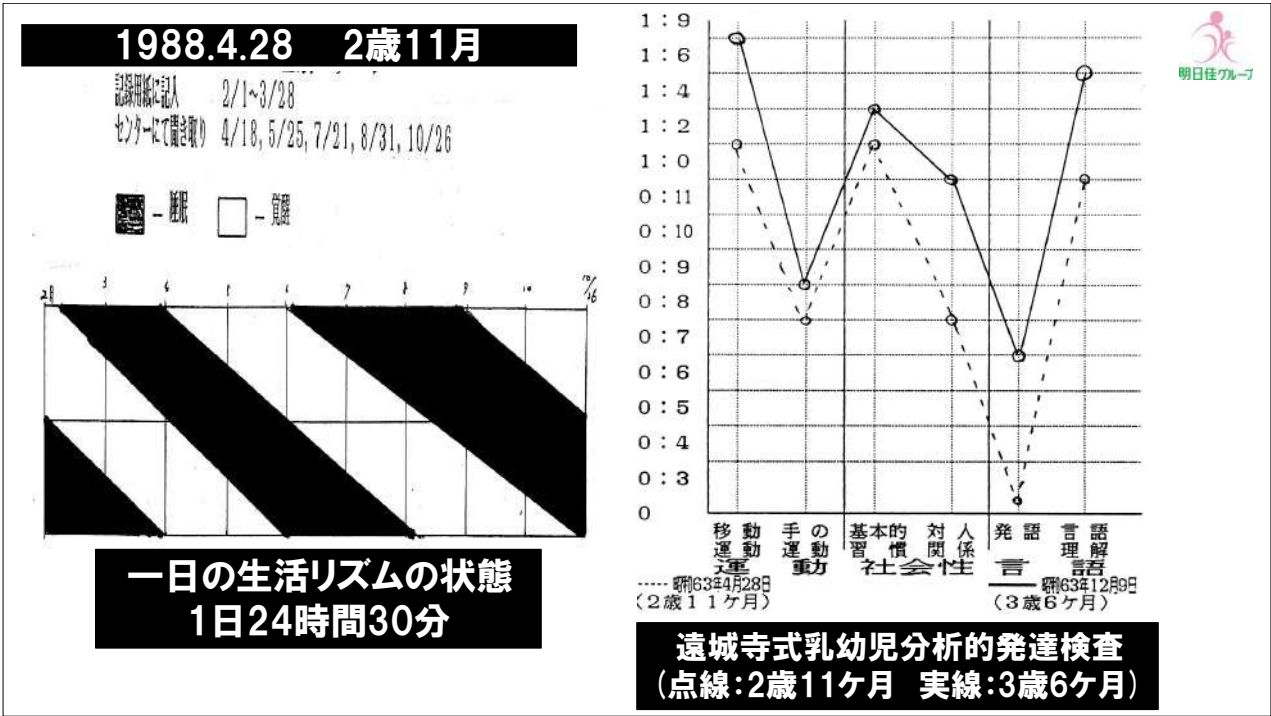
0.02

1mm 1.5cm

ビデオ

鈴木の実践 女兒Aの移動能力向上 1988.4.28 2歳11月

明日佳グループ



ビデオ



ビデオ

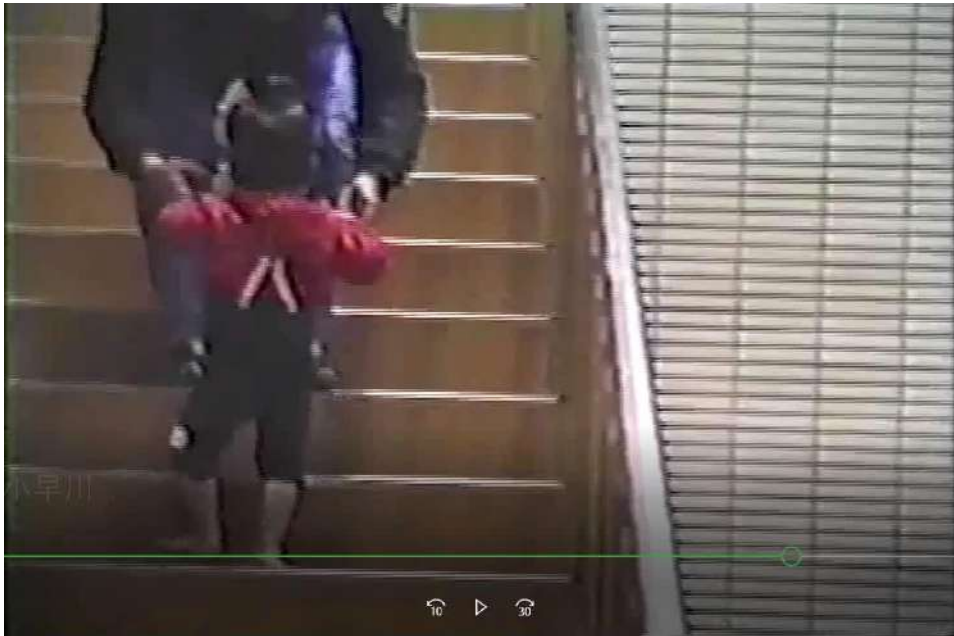


ビデオ



小早川

ビデオ



小早川

ビデオ

女兒A相談終了時の実態1989.1.19 3歳8月

家庭・地域支援にかかる 質問・議論

80頁

今後の盲学校の進展に向けた提言



寄宿舎を核とした日本版TSBVIテキサス州立盲学校モデル



専門性の高い学校

寄宿舎機能を活用して、県内全体の視覚障害教育の専門性の発揮と盲児・弱視児の家庭支援の中核化

「耳で見る、手で読む、頭で歩く」盲児のための学校は、教務・舎務・事務三位一体で教職員の専門性を保持した、盲児の“できる”を広げ、地域での学びを支える力を発揮する学校です。

熊本盲及び佐賀盲の取り組みが、これからの熊本と佐賀の視覚障害教育の中核として、視覚障害児の未来をつくっていきます。

熊本盲及び佐賀盲の教務と事務と舎務の先生方の地道な歩みを心から応援しています。頑張ってください。

鈴木重男

